

立浪部屋とつくばみらい市

早朝、静かな土俵に響き渡る、力士たちのかけ声やぶつかり合う音。

大相撲春場所に向けて朝稽古に励む立浪部屋（東京都台東区）は、令和3年までつくばみらい市陽光台にあった相撲部屋だ。

今年1月、立浪部屋に所属する力士「豊昇龍」の横綱昇進が発表され、第74代横綱 豊昇龍が誕生した。

現在、全国的に注目が集まっている立浪部屋。かつて市内にあったご縁から今回、立浪部屋の朝稽古を見学させていただいた。

今月号の特集では、豊昇龍関の横綱昇進を記念して、緊張感あふれる朝稽古の様子や横綱への特別インタビュー、立浪部屋の跡地の今など、さまざまな視点から「立浪部屋とつくばみらい市」を紹介する。

問 伊奈庁舎秘書広報課（内線 1105）

横綱として、優勝回数を2桁に乘せることを目指に頑張ります。
豊昇龍
— 今後の目標や抱負を教えてください。

— 横綱に昇進した率直な感想を教えてください。
素直に嬉しいです。ただ、とても責任がある立場ですし、プレッシャーも感じています。

— つくばみらい市の思い出を教えてください。

初めて入った相撲部屋は、つくば

みらい市にあったところの立浪部屋でした。街中では市民の皆さんによく声をかけてもらったりして、皆さん優しくしてくれました。あとのことは忘れないです。あとはお米がとても美味しいですよね。今でもよく食べていますよ。

横綱 豊昇龍 特別インタビュー

豊昇龍

(本名:スガラグチャ・ビヤンバスレン)
平成11年5月22日生まれ。出身はモンゴル国ウランバートル市。身長185cm、体重140kg。初土俵は平成30年1月場所。趣味は「ゆっくり休むこと」。



受けける側とぶつかる側に分かれて行う「ぶつかり稽古」。100kgを超える力士の闘志がぶつかる音が鳴り響く。



稽古の最初はストレッチから。体をほぐし、柔軟性を高める。



ほかの力士の稽古を見て学ぶ「見取り稽古」。一瞬たりとも無駄にしないと、集中した雰囲気が漂う。



弟子たちの稽古を見守る立浪耐治師匠。その眼差しは真剣そのもの。



稽古の1つである「四股」は、下半身の強化に欠かせない重要なものです。

緊張感あふれる朝稽古



土俵を揺らす闘志の衝突。